

活動報告

女性セミナー

脳トレ体験教室を開催

11月16日、出前講座として伊達市スポーツ振興公社の田中雅子先生を講師にお迎えして「脳トレ体験」を学習しました。リズムに合わせて「頭トン、肩トン膝トン・ハイ！反対」次は右手でジャンケン・勝って、負けて、ハイ！左手でハイ！と先生の元気な声と笑顔で参加者は大満足！



小学校で演劇鑑賞

11月18日、「いつもお世話になっております地域の方々も一緒に」との校長先生からありがたいお誘いを受け、小学校体育館でいきいきカレッジのメンバーと共にミュージカル『星の王子さま』を鑑賞しました。体育館3分の1もの大きさの舞台と宇宙の星がキラキラと輝く照明に圧倒されながら、小学生は床で、いきいきカレッジとセミナーメンバーは招待席のステージで、素晴らしい芸術鑑賞ができました。

お正月を飾ろう

12月21日、「お正月の生花」を地元細谷在住の小原流講師 橋内祐子さんのご指導で学習しました。松竹梅と菊・猫柳・万両等を生け、定期的に早いので長めに生けて、長持ちさせる方法も学び、さらにお飾りに水引細工の淡路結びも覚えてニッコニコでした。(新春号表紙に掲載。講師の橋内さん(左)と納得のメンバーです。)

いきいきカレッジ

愛宕山を散策

11月19日、堰本いきいきカレッジでは「愛宕山散策」を行いました。参加者は6人でしたが、青空のもと交流館を出発し笠石観音堂を目指しました。石段を登り切り観音様をお参りしてから、今年度整備された遊歩道を抜けると堰本配水池の近くにできました。あとは愛宕神社にすぐです。残念ながら今は樹木が伸び放置畑も多くなって信達平野が一望に、とは行きませんでした。一列になってお話をしながらゆっくりの散策は健幸気分を味わいました。

パークゴルフで

身体を動かし健康づくり

12月7日、栗野の「梁川パークゴルフ場」で女性セミナーと合同で体験学習を行い、17人が参加しました。



はじめに澁谷会長のあいさつ、佐藤裕一指導員からルールとマナーの指導後、4チームに分かれてコースを回りました。なかなか思ったところに球が行かず悪戦苦闘：だんだんコツが分かり、面白くなったところで生憎の雨模様となり、終了しました。次はスコアカードの付け方をマスターし、もっと上達したいなど、皆さんの自信の程が見られました。

【ご遺志】

(令和3年4月〜12月)

- 桃井 洋子様 (故善衛様) 原
- 小賀坂幸雄様 (故イノ様) 東木田
- 原田建一郎様 (故建夫様) 東前
- 浦野 明様 (故 孝様) 大門
- 橋 光弘様 (故トシ様) 東前

お寄せいただきましたご遺志は地域福祉向上のため大切に使用させていただきます。

ありがとうございます。

堰本地区社会福祉協議会

会長 橋内 武

防火水槽の修繕終了!!

10月18日から大関字山ノ口地内(鹿子)の防火水槽の修繕塗装が完了しました。この事業は、3ヶ年にわたり細谷新田水環境保全協議会との合同事業として実施してきました。今回で地区内のすべての防火水槽の修繕作業が終了しました。あわせて、危険箇所の表示看板も作成し掲示しました。



交流館周辺の庭木整理

交流館北側の植木が伸びてきていて、特に大関方面から来る車が見えにくい状態でした。12月10日、地区内の方に依頼し、役員も出て剪定作業を行いました。車の往來の見通しが良くなりました。



お知らせ

2月のセミナーといきいきカレッジはお休みです。

編集後記

新年を迎え、しばらく鳴りを潜めていたコロナウイルスがまた感染拡大しています。しかも感染力の強いオミクロン株、特に子どもたちに広がっています。マスク着用、うがい・手洗い励行：日々の注意がまだまだ必要です。自分も家族も地域も守るためには、一人ひとりの心がけが大切です。

秋号の表紙を飾った橋内武さん、レイ子さんご夫妻のお名前(玲子↓レイ子)誤記ありましたのでお詫びして訂正します。

人と地域を育む愛宕の里 せきもと

令和4年新春号 (第11号)

里づくりせきもと



発行：せきもとさとづくり推進協議会

●新年のあいさつ



せきもとさとつくり
推進協議会
会長 澁谷基昌

あけましておめでとうございます。皆さまには、お元気で、新年を迎えられたことお慶び申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染拡大により大変な一年でした。そんな中で「暗いニュースがたくさんありましたが、これも、コロナの影響でしょうか？しかし、明るいニュースもありました。」新型コロナウイルスワクチン」が出来、接種が始まったことや、一年遅れての「2020東京オリンピック・パラリンピック」開催でした。復興大会として日本は、オリンピック史上最多のメダルを獲得し、選手たちの大奮闘でした。私たちに、大きな感動と勇気を与えてくれました。

さとつくりも、大半の行事は自粛、自粛でしたが、生涯学習活動は、予定どおり実施されました。その中で小学生といきいきカレッジ、女性セミナー、長寿会による「グラウンドゴルフ大会」を開催し、盛会裡に終了できました。参加者の方々から次回も開催してと嬉しい声もありました。

また、交流館周辺草刈り清掃、樹木剪定等各種団体や地域の方々のご協力をいただき実施できました。一生懸命作業をしていただき感謝申し上げます。

今年は、先ず、学校、各種団体と連携を一層深め気軽に参加できる運営に努めます。それには、皆さま方のご理解と積極的なご参加をお願いいたします。

役員一同、より一層研鑽に励み「ワンチーム」でより良い会となるように、寅年にちなみ目標に向かって果敢に「トライ」してまいります。

今年こそ、新型コロナウイルスが収束し、明るい年となりますようご祈念申し上げます。

祝叙勲

農業振興功労で旭日小綬章

前JA福島五連会長大橋信夫様



勲記と勲章

えに、地域組合員の皆様、農協役員員の皆様、各種関係団体や諸先輩の皆様を支えられ、育てていただきました。

お礼の言葉

令和3年秋の叙勲に際し、はからずも旭日小綬章受章の栄に浴し、身に余る光栄と感謝いたしました。これもひと

お寺さんコラム

「生きかたを考える」



慈恩寺住職
中島智全

厚労省は、日本の平均寿命が延び、昨年（令和二年敬老の日以前）百歳以上の方が全国で8万6510人になったと発表しました。女性が全体の88%を占め、男性は初めて1万人を超えました。「人生五十年」などといわれていた時に「ああ、またひとつ年をとってしまったなあ」と嘆いたものです。当時は数え年で、お正月になると一歳を加えると、いう計算でした。現在では満年齢に変わったためもあるのですが、お正月を迎えること、生きてまた新年を祝うことのできる喜びと自信を味わう人が増えるか、という計算です。まだまだ頑張るぞ、と張り切って、初参りをなさるお年寄りが増えてきて、まことにおめでた

いかがりでございます。新しい年を迎える心が変わってきたように、信心のあり方も変わってまいりました。人生は短い、年をとれば死は近く、せめて信仰に励んで、極楽往生をさせていただきたい。死の苦しみをやわらげたい、こつこつ願いが、最近では、

丈夫で長生きするため、信仰の道に入りたいたいという願いに変わりつつあります。生きていくより死んだほうがマシだ、どうせもうじきに死ぬのだからやりたい放題、あとは野となれ山となれだ、と考える人は少なくなりました。老後の計画を立て、趣味を持ち、できそうな仕事があれば働き、仏様の教えをその日その日の生活に生かそう。これが在家信者の心意気でありましょう。仏教は死に方を教える宗教ではありません。死にこだわらず、死を恐れずに生きるには、どうしたら良いか。それを説く宗教が仏教なのです。

往生とは、「往（い）って」「生（ま）れる」と書きます。仏さまの世に生まれ変わるのが往生であります。別の世がどんなところか、この世にいる私たちにはわかりません。それだからといって、別の世などあるものか死んだら何もかもおしまいだ、ひとりで決めていく人は、別の世を知らない人です。

仏さまは別の世へ「往」く方法をお説きになられているのではなく、別の世を信じて生きる方法をお説きくださるのです。そういう意味で、お正月は、仏さまから生きる勇気を与えていただく絶好の機会であると言つことができましょつ。

いただいたものと感謝申し上げます。次第であります。

平成3年に梁川町農協の理事に就任以来、平成30年まで、農業振興と農協運動にただひたむきに尽力して参りました。その間、東日本大震災と東京電力福島第一原子発電所事故による風評被害の払拭に奔走し、常に挑戦と改革の旗印の下、JAの発展と地域農業振興、農家経営の向上と安定を願い、努力して参りました。これも地域の皆様の温かいご指導とご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

今後も健康に留意し、いささかなりともご芳情に報いたいと思っておりますが、体調を崩してしまい、大変申し訳なく思っております。

皆様のご健勝とご多幸、並びに新型コロナウイルスの1日も早い収束を、心よりお祈り申し上げます。

大橋信夫

今回は、長年の功績に対して叙勲及び受賞された皆様を掲載しました。それぞれの分野で、地域貢献いただきました。感謝とお祝いを申し上げます。

おめでとうございました！

各種団体受賞者名（敬称略）

令和3年中に堰本地区区内で受賞された方々です。それぞれの立場で任務につかれています。長年のご活躍に感謝申し上げます。

- 消防団
 - 県永年勤続章 船山 隆之
 - 佐藤 克彦
 - 県消防協会精勤章 齋藤 英樹
 - 伊達支部功績章 菅野 光範
 - 大槻 一政
 - 大友 幸二
 - 伊達支部精勤章 大橋 堅一
 - 山下 喜行
- 青少年育成推進協議会
 - 市功労賞 菅野 吉
- 社会福祉協議会
 - 県感謝状 橋内 武
 - 市感謝状 小賀坂初子
 - 堀江 英吉
- 交通安全協会
 - 県功労賞 津田 茂
- 防犯協会
 - 県功労賞 橋 典雄
 - 市功労賞 津田 俊雄
 - 市感謝状 澁谷 基昌

地域の方々紹介

ふくしま駅伝に参加して

伊達市代表
金澤 陶子

陽光台、高校生

私は、11月21日に行われた第33回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）に伊達市代表として走らせていただきました。福島西高校3年の金澤陶子です。

私は、父や姉の影響で小学校の頃から陸上の大会を見に行ったり、ロードレース大会に出場することがありました。「走ることが好き」そう思い中学校から高校まで陸上競技部に入り、ふくしま駅伝に携わってきました。

11月に行われたふくしま駅伝は、私の陸上人生最後となるレースでした。私は本宮市から大玉村の11区、3.9キロを走りました。走る前は、チームのコーチや先輩から励ましの言葉をいただきました。襷をもらいスタートすると、沿道の方々やチームの仲間からの「がんばれ」で自然と笑顔になりました。このレースで私の全てを出し切る、悔いの残らないレースにすると心に誓いながら走りま

した。結果、区間4位で襷を繋ぎ、今

の私ができる最高のレースをすることができました。私がかこまで頑張ることができたのは、練習を見てくれた監督、コーチと一緒に練習してきた仲間、何より家族の支えがあったからです。陸上競技は走るの自分ですが一人では絶対に最後までやり切れないスポーツだと思えます。私は周りの方々のおかげで競技者として、人として成長することができました。

春からは、将来の目標に向かってそのための勉強を学ぶことを希望しています。選手として走ることはありませんが、伊達市駅伝チームの一員として選手を支える側になりたいと思っています。そして、これからも人との出会いに感謝し、陸上や駅伝を通してふくしま駅伝に携わっていきたいと思います。



2年ぶりに全区間を走ったふくしま駅伝で、金澤さんは素晴らしい走り、伊達市総合18位の成績に大きく貢献されました。（上記は福島民報新聞に掲載されたものです）